

# シナリオ 8

## 避難所開設後 一日経過まで

### 【場面設定】

避難所開設から1日が経ち、ゆかりや京子たちのいる小学校にも、初めて支援物資がトラックで届けられた。



灯油をほとんど使い切った体育館には、毛布が150セット搬入された。

やっと昨晚のような寒さから解放される。山田会長は少しホッとした。

今日も避難者は続々とやって来ている。とりあえず、子供達や体の弱いお年寄りから、限りある支援物資を配布していこう。

重度の負傷者がいないのが救いだ、避難生活が長期化することが必至の状況だ。100名を超える避難者の生活物資の確保には、きちんとした管理を行う必要があるな…。

そう考えているとき、何回

目かの余震が体育館を揺らし、犬が大きな声で吠えた。避難所運営に携わっているのは高野教頭と山田会長だけで、まだ名簿も整備できていない。

不審者が紛れ込んだりして何か問題があると大変だと心配していたところだったが、どうやら体育館の中に犬を連れてきた避難者がいたようだ。

高野教頭は、犬を連れてきた避難者に、屋外につないでおくように話したが、「こんな寒空の中に家族をほったらかしにできません。」と激しく拒否された。

そこで、山田会長は、現在の避難者に状況を説明し、理解いただくよう働きかけたところ、「子どもが動物アレルギーだ。早くどうにかしろ。」「この子だって、私の子どもなのよ。」

避難所はそれぞれの意見に分かれ、騒然としてきた。



### 【議論のポイント】

- ・山田自主防災会長はこのあとどのように行動するべきでしょうか。
- ・避難所では、いろんな事案が発生します。どのようにすれば、安心して、生活できますか。

## シナリオ 8 続編

### 避難所開設後 ～一日経過まで

#### 【行動シミュレーション】

そこへ市の避難所担当職員が災害対策本部に避難所の状況の連絡を終えて戻ってきた。

「ここにある**支援物資は、取り合いになるかもしれないし、**

ペットをどうするか  
のルールも定まっていま  
せん。

とりあえず山田会長と高野教頭と私でみなさんが避難生活を過ごすためのルールを作りませんか。」と呼びかけた。

物資配布のルールを決めて、平等にわたるようにすることが重要です。



山田会長は事前に避難所運営委員会のメンバーを決めていたが、メンバーの一人が一番頼りにしていた地元の消防団長は今も消防活動に手一杯なのかこちらには姿を見せていない。

とりあえず避難所運営委員会は、山田会長、高野教頭、避難所担当職員でやることを**避難者に説明し、避難所ルールを決める**まで一旦、犬を体育館から出してもらおうことで、なんとかその場を収めた。

避難者に動物アレルギー等の方も避難しているので、各避難所でどうするかルールを作りましょう。

「みなさんお腹が空いているので殺気だっていますね。飲み物と食料配布のルールを先に決めて、役割分担はその後決めて行きましょう。」そうして、自治会役員をはじめ、一部の避難者も協力してくれて、なんとか物資を配布し終えた。

しかし、いざ配り終えてみると、食べ物、水、毛布、救援物資も、人手も、まったく足りない。

それでも、被災者同士が集まっているのでみな協力的だ。

日用品や食べ物などを自宅から、持ってきた避難者もあり、その食料を家族だけでなく周りの避難者や地元の人間ではない旅行者にも配っていた。



ただ、今も続々と避難者が集まってきている。遅れてきた人は、**条件の悪いところしか場所が取れず、場所取りをめぐる小競り合いが起きている**。場所が決まってしまうと後から動きにくいので、この段階から障害者や高齢者、乳幼児のスペースを比較的温かくトイレに近い場所に確保し、出入口付近は成人に割り当てることを決めた。ペット連れの家族は、校舎内の空き教室で生活してもらうことで解決した。

避難所のプライバシー問題、睡眠時には家族と家族の間に衝立をおくなど、できる限りのプライバシーを確保するための方策を考えておくべきです。

これでほっとひと息。**消灯時間や起床時間、食事の分配方法など避難所生活の基本的なルールを紙に書いて一番見えやすい出入口に貼った。**

山田会長は、疲労感を覚えながらも持ち前の責任感で耐えながら、少し落ち着いたところで避難者名簿の作成に取り掛かった。

避難者全員が、ルールを知ることができるようにしましょう。

その時だった、「ちょっとひどすぎるぞ！」トイレから若い男性の大声が聞こえた。慌てて見に行くと…便器が悲惨な状況になっていた。「そうだ。断水していたんだ…」バケツでプールの水を汲みにいってもらい、なんとか流すことができた。まだ詰まっていなかったのが幸いだ。

ただ、冬のプールはほとんど水がなかったため、近くの池の水を排水用の水として活用することとし、**避難者には清潔なトイレの使い方について十分に説明した。**

「けが人や病人の手当てをしたいの。薬とか消毒液はないですか。」

「飲料水がない。給水車はいつ来るんだ。」

「ゴミの処理はどうしたらいいの?」「家族と連絡がとれないんだ。仮設電話は依頼したのか。」

「着替え場所もないし、プライバシーがないわ。」次から次に問題が起きる。

「困ったなあ。これじゃあ、自分の身がもたない…」ちょうどその時、支援物資の受け入れから戻った避難所担当職員が「避難所の手引き」を持ってきた。

「**山田会長が、何から何まで対応しなくても、避難所運営を避難者自身に任せましょう。マンパワーでより円滑にできますよ。**」

「そうか。市からもらった「避難所運営マニュアル」に書いてあったな、混乱して忘れていた。」

そうして、**避難者で動ける人を、総務班・情報広報班・給食給水班・物資管理班・救護班・生活環境班のそれぞれに班分けし、どのような仕事があるかを全員に説明した。**

トイレは更衣室としても利用できます。  
少しでもトイレが快適になるように、当番を決めて掃除するこ

一部の人だけでは、避難所運営は困難です。  
避難者全員で運営するようにしましょう。